

Vol.15

発行元：NPO法人22世紀
八幡ルネッサンス協会
八幡市八幡高畑 10-76
TEL・FAX 075-981-6505
発行：年4回

◆ 目次 ◆

八幡に生きる	… 1
弥生の至宝	… 2
やわたしぜんだより	… 4
橋本駅前整備計画	… 6
古川を美しくする	… 8
ニュースを読む	… 9
八幡の芸能	… 10
八幡 俳句歳時記	… 11
読者の文芸／編集後記	… 12

八幡に
活か
きる

文化交流の

カフェテラスに！

喫茶「こもれび」オーナー

山内洋征さん

彩さん



今回は、八幡市西山にあるログハウスの喫茶店「こもれび」の若きオーナーの登場です。

まず、洋征さん。当年39歳。石川県金沢市に、兄二人姉一人の末っ子として誕生。父親の転勤の関係で熊本など巡り、10歳の時に八幡市西山に定住。橋本小学校、男山第三中学校、八幡高校に進みます。高校卒業後、大阪の難波にある音楽学校に在

籍中に「レゲエ」に魅せられ、バンドを結成します。

レゲエは1960年代後半、ジャマイカで発祥し、1980年代に流行。ジャマイカは多数が黒人奴隷の末裔であったことから、歌われる内容は植民地主義や政治体制への反抗や批判もあります。リズムはアップテンポで楽天的です。2018年にはユネスコの無形文化遺産に登録されました。

バンドはやがて、11人のメンバーで全国ツアーを展開。CDも販売しました。トロンボーンやサクソフスのほか、ギター・ドラム・ベースそしてボーカルによる構成で、洋征さんはベースを担当。しかし、それだけで生括できるほど甘くはなく、普段は子供たち相手の音楽教室の教師などもしました。

彩さんは、大阪市出身。洋征さんとは、大阪の音楽学校で知り合います。彩さんは21歳の時に女性二人組でメジャーデビューしますが、折り合いが合わず、その後ワーキングホリデーでカナダに移住しました。

2年後、ホームページでカン

ボジアの子供たちに音楽をプレゼントする企画を知り、現地に飛びました。

カンボジアで、子供たちの前でピアノを吹いたところ、親御さんたちから「日本語や英語も教えてください」と言われ、語学や音楽を教えることを決意。数カ月後に移住。水道・ガス・電気などのインフラが未整備の段階で、生活するうえでの不便はありましたが、音楽を楽しむ子供たちの目の輝きに励まされ、生活が辛いとはあまり思わなかったそうです。

カンボジアで8年目に洋征さんと再会します。洋征さんはその間、仲間とのバンドを解消。だが、管理された社会に馴染めず、離島へ移住する決意します。そのことはレゲエのライフスタイルに沿うものだったのです。単身で向かったのはトカラ列島の諏訪ノ瀬島。鹿児島と沖縄の中間にある孤島で、面積は約27km²。その後インドに向かい、しばらく放浪。その間、タイやベトナムにも行き、カンボジアで彩さんと再会。彩さんから現地での演奏活動に協力してほしい

との依頼を受け、ベースを担当。カンボジアでは足かけ3年ほど演奏活動に励みます。

ところが、日本から父逝去の訃報が入り急ぎ帰国。その間、長兄が亡くなり、次兄も姉も独立。2016年に父が建てたログハウスの喫茶店をどうするかで兄弟で話し合い、結局、洋征さんが継ぐことになり、2016年にリニューアルオープンしました。

3年目くらいまでは、店を切り盛りするだけで精一杯でしたが、イベントなど音楽を軸に、少しずつ自分たちの色を出し、今ではレコード鑑賞会や絵手紙教室なども開催。地域のコミュニティスペースになればと願っています。店で提供されるものは全て植物性の食材で、菜食主義の喫茶店です。なるべく無・減農薬のものを使い、地産地消を推進し、白砂糖や化学添加物を使わないことで、エコ中心の生活スタイルを実践するようになったそうです。是非一度足を運んでみてください。

(構成・土井三郎)

弥生の至宝 五

式部谷銅鐸 (5)

濱田 博道

今回は式部谷銅鐸発見当時から問題となっている銅鐸の埋納地や埋納個数について考えてみます。

①銅鐸の埋納地

第1回目で述べたように式部谷銅鐸は次のような場所、状態で発見されました。

正法寺の裏山の山頂からや、降った標高70mの傾斜地で、平野からは望むことの出来ない山かげに埋納。そこは北側の谷間から迂回して入って、やっとたどりつく場所である。
 『古代文化 第9巻3号』 古代学協会1962、要約)

②埋納地の調査

銅鐸の埋納地については『新版日本史辞典』(角川書店1997)に次のような説明があります。

(銅鐸は) 集落から離れた丘陵や山腹の斜面に埋納した状況で発見されることが多いが、近年では集落内ないし周辺からの出土品も増えている。



式部谷銅鐸出土地

↑「京阪バス男山車庫」より南の銅鐸出土地を望む

島根県教育委員会では県内の荒神谷遺跡から6個、加茂岩倉遺跡から39個もの大量の銅鐸が発見されたのをきっかけに、1997年から4年をかけて全国の青銅器埋納地の調査を行いました。

それによると、銅鐸では丘陵上に位置する遺跡が75%を超えて卓越して多く、平野部は約30%。丘陵でも、斜面から出土するものが全体の4割を占めて圧倒的に多かった。平地では集落の縁辺が多く、丘陵の尾根上や斜面に埋納される例では、複数の埋納や、同一の谷や斜面の複数地点から出土する例が28例あった、このことです。山城地域では式部谷銅鐸

が丘陵斜面、精華町の相楽山(巨銅鐸が丘陵地集落縁辺の出土です。全国の調査結果から、銅鐸埋納地は「何らかの意識された一定の空間(例えば聖域とか境界として意識されたような場所)が選定された」(青銅器埋納地調査報告書 島根県埋蔵文化財センター2002)ということ。神聖な領域あるいは集落と集落の境界の場所に銅鐸が埋められたというのです。

また、「邪霊の進入路と推定したその入り口付近で銅鐸祭祀を行った後(神への奉納の意味で)埋納された」(『国立歴史民俗博物館研究報告』第1集)とも説明されています。

③金振郷と式部谷銅鐸

式部谷銅鐸については地名考証の観点から次のような指摘があります。

(銅鐸が出土した) 付近の山は『男山考古録』による金振山に比定され、地名も銅鐸との関係が想像されて興味深い問題である。
 (『八幡市誌』第一巻)

つまり、銅鐸が出土した地点は金振山で、(銅鐸が出土した) 付近の山は『男山考古録』による金振山に比定され、地名も銅鐸との関係が想像

されて興味深い問題である(『八幡市誌』第一巻)「金振」とは「振る金(鐸)」。「銅鐸を振る」(豊饒を祈願して銅鐸を振って鳴らす) ことから付けられた名と関係するのではないかということです。

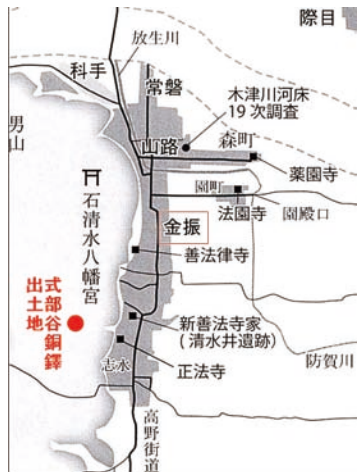
「金振」の名は古く、1183年(寿永2年)、「安居祭で金振但馬守助宣が幣(神に祈るときに神前に供えるもの)を奉る代役を務めた」(『安居神事頭人記』)との記述がありますので、平安時代後期金振の名はすでに使用されていたことがわかります。

また、金振郷は中世には八幡八郷の内四郷(常盤郷、科手郷、山路郷、金振郷)の一つです。「志水領より北は平谷町・園町領まで当郷の内也」(『男山考古録』)と記述されています。現在の地名では八幡市男山の14カ所、八幡市八幡の64カ所、計78カ所が相当します。

さらに、『日本歴史大辞典』(小学館2007)に次のような説明があります。

銅鐸は出土地に「神岡」「神庭」「神於」「神種」など、神のつく地名が多いのも暗示的である。神の顕現する場所で奉納の意味で銅鐸を埋納したのは北部九州の銅矛形祭器と同様である。

八幡の金振郷の中に「神原」が含まれ、神原の場所は銅鐸出土地の式部谷（指月・清水井）に接しています。しかし、『男山考古録』には神原町は旧には河原と書き、「神原とは何れのころよりや書改めけん、未詳」とあるので、この町の（石清水八幡宮）社士の多くが神原名であるとも記述していますが、銅鐸との関係は全く不明というところです。



→金振郷を含む八幡八郷略図
『石清水八幡宮境内調査報告書』「八幡八郷略図」（八幡市教委2011に上書）

④ 鰭を上下の埋納方法

前掲の『古代文化』の報告で次のような記述があります。

式部谷銅鐸は土中約2m、銅鐸の鰭の状況から鰭を上下にして横に倒した状態で埋納と推定。

一般的に「銅鐸の大多数は、鰭を上下にして1〜2個を土中に埋めて」（『日本歴史大辞典』小学館）おり、この埋納方法は出雲をはじめ、阿波・京都・遠江など広い範囲で、しかも古い銅鐸から新段階の銅鐸まで時代を超えて見られます。それでこの埋納方法は「銅鐸を埋納する際の時代・地域を超えた基本的な方法」と結論付けられています。（青銅器埋納地調査報告書 島根県埋蔵文化財センター12002）

弥生時代すでに全国にわたって決まった埋納の仕方があったというのは驚きですね。

⑤ 銅鐸埋納の個数

『八幡市誌』第一巻に次のような記事があります。

銅鐸は一か所から数個発見される場合も少なくないし、この式部谷銅鐸も当初から複数個出土したとの噂がいつまでも消えないなど、今後の解明をまたねばならない。

式部谷銅鐸の現存数は1個です。元来、複数個出土したのでしょいか。次の図は大阪北部の銅鐸出土数推定図（大阪北部の博物館の説明図）です。



↑銅鐸出土分布と可能推定数
←男山拡大図



運よく端に、男山・式部谷銅鐸の出土推定個数も載っています。

それによると式部谷銅鐸は3個埋納されていた可能性があるというのです。（黒色は現物有、白色は出土した可能性有）

式部谷銅鐸について、出土当時「この他にも銅鐸を見た」という人もいたようです。銅鐸は「入れ子（大きな銅鐸の中に小さな銅鐸を入れる）にして埋納されることが多々あります。式部谷銅鐸は「入れ子」だったのか。興味がわきますが、50年前のことでは残念ながら現在では調べることがなくなりましたよ。



↑「入れ子」で出土した松帆銅鐸。
『青銅と鐸と武器』兵庫県立考古博物館 2017より）

⑥ 銅鐸埋納の意義

最後に、埋納した理由ですが、いろいろの説が出されています。いくつか紹介しますと、①宝器隠匿説（大切な宝を土中に隠した）②祭器埋納説（祭り事に使用する器具を埋納した）③地中保管説（保管のために土中に埋めていた）④廃棄説（廃棄のために）などがあります。但し、④の説を取る研究者は最近は少ないようです。

弥生時代後期、八幡の地で銅鐸の祭りが行われ、またその銅鐸は地域のシンボルとされます。そんな豊かな八幡でした。そして銅鐸は最後に男山の式部谷に鰭を上下にして埋納されます。それからまもなく古墳の時代へと移っていきます。今回は「銅鐸から銅鏡へ」変わっていく時代について考えたいと思います。

やわたしぜんたい

No.5 山村元秀

クスノキの葉にみる自然の不思議



クスノキの花

市制施行に伴い八幡市の木となったクスノキ。石清水八幡宮のクスノキ林は、男山の照葉樹林を構成する代表的な樹林に数えられており、京都の自然200選にも選ばれています。また、市内でも街路樹としても植えられており、まもなく淡黄色の花をつけます。この木の近くで梢をながめていると「アオスジアゲハ」が産卵にやってきます。黒に水色の模様が美しい、とても素早く飛ぶアゲハチョウです。産卵の時期は5月～10月頃まで続き、2～3回羽化してさなぎで冬を越します。

クスノキには樟脳油という臭気を出す物質があり、昔から衣類の虫除けとして使われてきました。

クスノキの語源は「くすりのき」だそうです。虫をよせつけないクスノキをなぜアオスジアゲハだけが好んで産卵し、幼虫のえさにす

るのでしょう？

虫よけの薬となるクスノキをあえて住みかにしているもうひとつ別な虫がいます。クスノキの葉脈の分かれ目のところにはおできのようないさなふくらみがあり、これはダニのすみか（ダニ部屋）になっています。



アオスジアゲハ



クスノキの発散する虫をよせつけない特別な物質が外敵を追い払ってくれるのを期待して産卵し、住みかにしているのでしょうか？

クスノキは身近な公園にもたくさん植えられていますので観察してみてください。

どちらもクロアゲハ？ — 身近な生き物からわかる環境の変化 —

ミカンの木は今、よく目立つ真っ白な5弁の花をつけています。キンカンやミカンは、アゲハチョウの仲間の食草です。食草とはチョウやガの幼虫が餌にしている葉のことです。

この2種類の黒いアゲハチョウの幼虫は、どちらもミカンの葉を食草にしています。成虫もとてもよく似ていますが、後ろの羽を比べてみると突起（出っ張った部分）に違いがあります。

3年生の児童に理科の学習でモンシロチョウやアゲハの飼育をさせていましたが、校内のミカンの木にいる幼虫や卵を飼育して羽化させると、半数がこの尾状突起とよばれるしっぽのないナガサキアゲハでした。

もともとは、沖縄や九州の南の方にいたチョウですが温暖化の影響を受け、今では関東地方でも見ることができるようになりました。



クロアゲハ



ナガサキアゲハ

終齢幼虫の違い

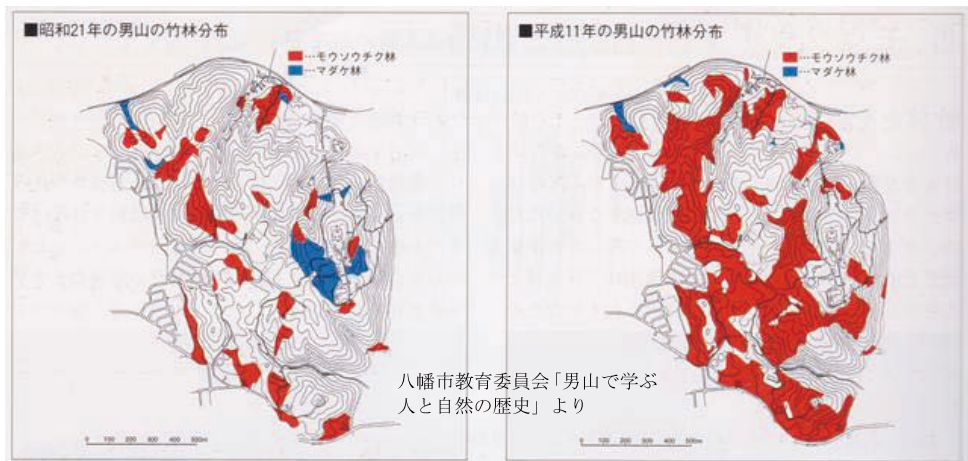


クロアゲハ



ナガサキアゲハ

ちょっと気になる男山の自然 —モウソウチクの放置竹林—



図のように男山のモウソウチク林の拡大による植生構造の変化は植物の多様性に大きな影響を与えています。

竹林で残りやすい植物種は、ヤブコウジ、ジャノヒゲなど常緑で耐陰性の強いものや、サルトリイバラ、ミツバアケビなどのつる植物です。明るい二次林を代表するようなアセビ、ソヨゴ、ヤマツツジ、ウツギ、ネジキな

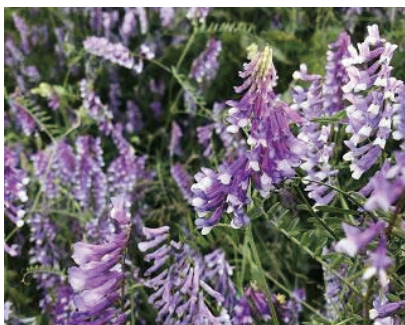
どだけではなく、照葉樹林の林床で多く見られ、耐陰性の強い、ヒサカキ、ネズミモチ、ヤブツバキ、アオキなども出現頻度が低下し、草本では、コシダ、ヤマツツジ、ウツギなど明るい広葉樹二次林を代表する種の出現頻度の低下が顕著になります。

広葉樹林にモウソウチクが侵入することは、光要求度の高い林床植物と林冠で競合する高木種を減少させ、植物種の多様性にはマイナスの影響しかもたらしません。竹林の拡大による生物多様性の衰退は各地で問題になっています。

森林利用で貧栄養状態の土壌であったことでツツジやアカマツ、コナラやクヌギが守られていた頃の男山に戻すことはできませんが、拡大するモウソウチク林の実態を知ることは地域の自然とどう向き合っていくのか考えてみるきっかけになると思います。

ナヨクサフジの分布拡大

春の野原をまぶしい黄色で染めるセイヨウカラシナ（アブラナ科の外来植物です）が一段落すると、河川敷や堤防はナヨクサフジで紫色に染まってきます。ナヨクサフジはレンゲと同様に緑肥として日本に導入されました。「ヘアリーベッチ」として種も販売されています。しかし、農地以外にも簡単に広がり、旺盛な繁殖力で他の植物をおおいかくすようにしてどんどん広がっていきます。環境省の外来種リストに、適切な管理が必要な産業管理外来種として記載されています。



その繁殖の勢いからとても強い外来種のように思えますが、河川敷から離れた場所で群落を見ることはありません。外来種には花粉を運ぶ植物がいなくても自家受粉で増えていく植物が多くいますが、ナヨクサフジは特定のハチの訪花を受けないと果実を实らせることができません。河川敷にたくさんいる日本ミツバチは口吻が短いので受粉できないのですが、1.5倍ほど長い口吻を持っているシロスジヒゲナガハナバチの訪花があると受粉できることが分かってきました。（図1）

もう一つ果実を移動させるという点でも、同じマメ科のカラスノエンドウのように鞘がはじけて種子散布をする能力はありません。ワルナスビ等、農耕地の外来種には重機による耕起が原因で増えていきます。堤防でも定期的に重機による草刈りが行われており粉砕した草に混じってナヨクサフジの種が移動し、急速な分布拡大がおこっていると考えられています。

種子散布能力が低いことから河川敷周辺から、市内の公園などに一時的に入ることはあっても、大きな群落を作り、どんどん分布を広げていくことはないそうです。

しかし、木津川の河川敷にはレンリソウ、カワラナデシコ、タヌキマメ、アマナ、オオバクサフジ等の絶滅が危惧される植物が生育しています。これらの生育地周辺ではナヨクサフジの侵入に気を付け、侵入した場合は積極的な駆除が必要です。

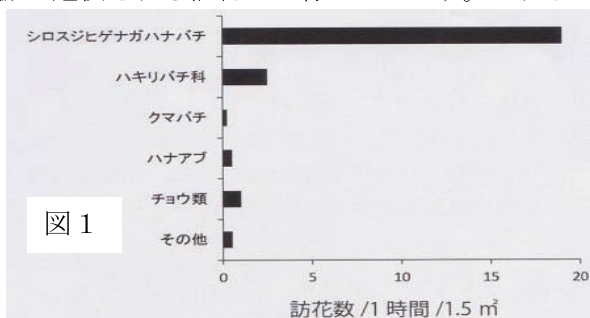


図 1

大和川河川敷におけるナヨクサフジの訪花昆虫
Nature Study(大阪自然史博物館友の会会報64 巻12 号)より

—2年目を迎える「やわたしぜんだより」について—
生物の多様性を維持していくことの大切さは今の社会に課せられた大きな責務のひとつです。開発や環境汚染、地球温暖化など、生物多様性は危機にさらされていますが、そのひとつに「外来種による生態系のかく乱の問題」があげられます。身近な自然の紹介とともに、環境の変化に伴う生物相の変化、外来種の問題も取り上げながら地域の自然を考えてみたいと思っています。

橋本駅周辺整備計画の 現状について

◆はじめに

「きずな」編集委員会

「きずな」前号の「市政を問う」で、橋本駅前開発の現状や市の基本姿勢について問い、四区自治会のアンケート調査もふまえて、地域住民の納得する形で進めてほしいと提言した。今回、四区でこの問題を担当されている副区長の竹村正輝氏に、四区の立場から話を聞くことができた。なお、この報告は編集委員会できちんと確認いただいたものであることをお断りしておく。

◆市の橋本駅前広場整備計画

2017年3月、橋本南山線の府道への延伸工事が完成し、9月には隣接する枚方市中之芝にスーパーマーケットをはじめ4店が開業。橋本地区からの利用者も多く、長年の課題であった買い物物の不便がかなり緩和されることになった。

これと前後して八幡市（都市整備課、以下市）は橋本駅周辺整備に関する住民説明会を4回開催し、2018年11月に橋本駅前広場整備計画（図を参照）を提示した。橋本公民館

前のロータリーを四区公会堂前あたりまで近づけ、そこから駅改札口までを整地して駅前広場と階段・スロープのある通路とするといいものであった。また駅から公民館前への道路は拡幅され、途中でロータリーと橋本南交差点を結ぶ2車線道路につながることで、車による駅へのアクセスの改善が期待される。

計画図のロータリーの南には京阪電鉄不動産（以下京阪）の開発予定地が広がり、住民から駅前広場との一体的な開発を求める声があった。八幡市四区（自治会、以下四区）は橋本駅前整備計画について、行政・事業者・住民による市民参加型の「開発協議会」の設立を繰り返し市に要望してきた。しかし市からの回答は、地権者による民間開発事業であり、市の都市計画マスタープランに合致しているため口をはさむ余地はなく、協議会は設立しないというものであった。

◆一住民として市に提案

2019年5月、市の最後の説明会終了後、京阪による開発も含めた駅前整備計画について、一住民として5項目の提案を行った。

①橋本地区の将来像を見すえた長期的スパンの計画

②民間事業者の協力を得て市と一体となった計画

③石清水八幡宮駅から枚方市中之芝までを視野に入れた計画

④公共的施設を集約するなど利便でにぎわいのあるまちづくり

⑤行政・事業者・住民の話し合いによる住民参加のまちづくり

このうち③について、大谷川沿いに残る科手道や京街道の趣、男山と木津川にはさまれた自然環境を生かし、樟葉台跡公園までの広域的な視野の中に、今回の計画を位置づけてほしい。

④について、橋本小学校校区は1万2000人も人口が集中するにもかかわらず、たとえば、交流センターや図書館、子育て支援センター、老人の家などの施設が一つもない。これらの施設を導入して、橋本駅前を便利でにぎわいのある交流拠点としてほしい。

◆三者勉強会と四区の立場

駅前らしい駅前もなかった橋本駅周辺の整備は、地元住民の長年の悲願であり、新しいまちづくりへの期待は大きい。この機会を逃せば、またいつまで待たされるかわからない。四区としてもしっかり取り組んでいく必要がある。そこで京阪の開発計

画に住民の意見を反映させるべく市に求めて実現したのが、市・京阪・四区からなる「三者勉強会」（以下勉強会）であった。京阪には住民の同意を得て、市に15mの高さ規制を緩和する都市計画変更を申請する必要があった。一方、市は民間の開発事業だから京阪が対応すべきというところで、勉強会はもっぱら京阪が説明し、四区からの疑問や要望に応えるという形で進められた。

京阪や市が四区の同意を求めていることはわかったが、木津川堤防強化工事にもなう大クスノキ撤去問題の経験から、四区としては今回の問題について賛否の決議はしないことにした。四区は任意団体の自治会であり、住民の生活に多大な影響を及ぼす今回の開発計画に権限もなく、責任をもつことはできない。また住民の間に利害対立の溝をつくることは避けなければならない。駅前開発は行政あるいは事業者が住民に対して責任をもって推進すべき一大事業である。四区の役割は意見代表として住民の要望を市や京阪に伝え、彼らから誠意ある回答を引き出すことで、相互の理解を図ることにあるという立場を堅持した。

◆京阪の開発計画の問題点

勉強会は2019年8月から翌年の8月まで1年間、8回に渡って開催されたが、駅前のまちづくりについて話し合う前に、京阪の開発計画が提示されることから始まった。15階のファミリーマンション・13階と7階のシニアマンション・5階の有料老人ホームの建築計画で、3棟で300戸を超える入居が見込まれる。

四区が問題にしたのは、高さ45mの高層マンションが住宅地に直面する計画案で、近隣の住民が圧迫感や日照、眺望、ビル風などの影響を受けるおそれがあることだった。この問題を解決しないと話は進まないという京阪に迫ったが、これだけの高さがないと採算がとれない、地域貢献施設を導入できないと繰り返すだけで代替案も示さず、計画変更にも応じなかった。四区から京阪に対し、高層マンションが及ぼす各種の影響を調査し、そのデータをもとに説明して近隣の住民に納得してもらおうよう求めたが、調査結果が出たのは最終の第8回勉強会であった。

京阪は2020年度内に市による都市計画の変更を必要とし、タイムリミットとして9月末までに四区の

全体説明会の開催を求めている。6月には近隣の堂ヶ原町内会と中ノ町町内会で説明会が行われ、多くの疑問や反対意見が出された。7月には堂ヶ原で住民有志から市に計画反対と開発推進の2通りの要望書が提出され、中ノ町町内会では9月に全会一致で高層マンション建設反対が決議された。そして同月の町内会長会において、京阪による全体説明会に応じるかどうかが審議された。応じれば手続きが終わったとして都市計画変更が進められるおそれがあることから、応じないことに決定。四区として駅前開発を進めなければならぬが、近隣の住民が反対する京阪の今回の計画は受け入れられないとする意向が確認された。

◆まちづくり協議会からの

再出発を！

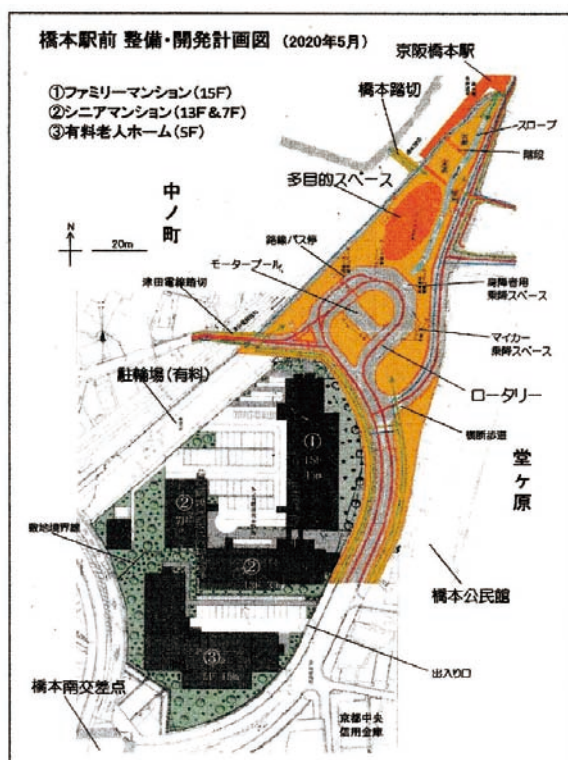
勉強会では高層マンションの問題をめぐって、京阪と四区の議論が膠着状態に陥ったため、四区から市に調整の役割を果たすよう求めた。市からは4月の第5回勉強会になって「最初から建物計画ありきではなく、まちづくりについて話し合い、住民の意見を聞いて計画をつくるべき」という提言があった。この提言を受けた5月の第6回勉強会で、京阪が

ら橋本駅前のまちづくりのコンセプトをまとめ「イメージビジョン」が提示され、資料をもとに説明があった。

8月には四区でも全戸を対象にアンケート調査を実施した。1671通、

49%の回答があり、町内会別、年代別に詳細な集計と分析を行った。たとえば駅前のまちづくりについては、生活に便利な施設・店舗があり、交通が便利で安全な駅前など、現状の不便さの解消を期待する声が多かった。ついで緑の環境や景観への配慮を求める回答が多かった。施設等については郵便局や交番の移転のほか、行政支所や医院・診療所、図書館分室など、公共的施設への要望が多く見られた。

京阪の提案や四区のアンケート結果をもとに、これから駅前のまちづくりについて話し合うべきときに、勉強会は結果を残すことなく終了することになった。四区としても申し



訳なく、改めて区民の駅前開発への期待を重く受け止めている。

この間、市による説明会は一度も開催されなかった。住民からの要望も強く、市の考えを11月の町内会長会で説明してもらったことになった。市は今回の計画について、地元の方々と考え方を調整したうえで、市が事業者と住民の間に立つて相互の調整をし、議論の取りまとめをする協議会を設置して、まちづくり計画から話し合えるようにしてほしいと要望した。いずれにせよ勉強会の反省をふまえ、一定のルールを決めてきちんと進められる場が必要ということで一致することができた。

古川を美しくする

久御山町 長岡 幸夫

八幡ルネッサンス運動同様に、他の市町村でも河川を綺麗にする活動をボランティアで行っている団体があります。久御山町の「古川をきれいにする会」がその一つです。今回は、事務局長の長岡さんにこれまでの取り組みなどを紹介してもらいました。

◆結成にいたるまで

平成17年6月26日。当時の坂本町長と「町長と語ろう」という会が開催された。その際、「永年お願いしているが未だに放棄されたまま。久御山町を縦断する一級河川『古川』がどぶ川化し、流れは汚く臭いも甚だしく、ゴミも流れてくる。ナントカナランダロウカ？」との意見が多くあった。

行政にお願いするばかりでは前に進まない。まずは地元から環境を守る運動を始めようと、地元流域の自治会さんに持ちかけたところ、話ほとんどん拍子に進展。丁度、河川でのボランティア活動を支援する山城

広域振興局の「山城うるおい水辺パーク トナーシップ事業」の募集があり、仮称「古川を美しくする会」で応募。10月4日認可され、適用地域を明示する立て看板も設置された。

組織は、地元流域の自治会で結成。副会長には当時の自治会会長。会長は当時の林自治会会長・岡西義正氏が就任。発起人有志が役員として参加。顧問に久御山町長、事務局は「フレッシュ久御山」の長岡が担当。

クリーンキャンペーンは、原則として毎月第一土曜日午前中に実施している。



→平成5年9月3日の新聞記事

◆古川とどんな川か

「日本書紀」にみえる「栗隈大溝」、これが古川の源である。

巨椋池おびく池の南に居住していたとみられる古代豪族、栗隈氏は秦氏と同じく土木工事の技術をもって大和政権に仕えた。仁徳天皇十二年十月の条に「大溝を山背の栗隈縣に掘りて田に潤く」とある。大谷川の改修(大谷川は地形からいえば西へ流れるはずなのが北へ流れている)であろうとも言われている。日本最初の運河である。灌漑用・舟運用の水路であり、名木川と合流して東一口まで流れ、宇治川に流入する。かつては巨椋池に注いでいた。やはり古い川?なのだ。栗隈縣は、古代の那紀(宇治市伊勢田付近)栗隈(宇治市大久保付近)久世(城陽市北部)の範囲とみなされるが、その久世郡栗隈郷の地名の由来は、クリは高句麗、クマは高麗からきているようだ。

余談だが、当時、栗は米の代わりに年貢にも使われ貴重な食物であった。この頃の朝廷は「応神天皇」である。母は朝鮮征伐で有名な神功皇后。朝鮮半島からの文物、技術の導入、大和・河内地方の開発などを進めた。3人の子供のうち、次兄が第16代天皇仁徳天皇だ。土木工事に長け、



←会のメンバーの集合写真

治水に熱心な人物だった。

高き屋にのぼりて見れば煙立つ民のかまどはにぎはひにけり

仁徳天皇の御詠(新古今巻七)

由緒ある古代からの遺産、古川の流れを！昔の姿に取り戻し、負の資産を後世に引き継がないようにしたい。



日本国憲法がある②

—コロナ禍の後のより良い
社会を目指すために

大阪国際大学名誉教授

石野はるみ

現在、コロナ感染の状況が刻々と変化するなか、憲法改正問題が世論の隅に追いやられています。コロナ後のより良い社会はどのようなものかと考えると、日本国憲法はより重要性を増しているのではないのでしょうか。

オリンピック委員会前会長森氏の女性蔑視発言と辞任騒動に、各界の人々が抗議の声を上げるだけでなく、世界中の人々の注目が集まりました。発言は日本の女性の置かれている状況を端的に表したものと受け止められました。政府も日本のオリンピック委員会も社会への「男女共同参画」やオリンピック憲章(6 人権、宗教、政治、性別、その他の理由に基づく国や個人に対する差別はいかなる形であれオリンピック・ムーブメントに属する事とは相容れない)という原則を標榜しつつ、実は重要視して

いないということです。

依然と男性優位社会である日本の現実はこの通りです。

日本女性の地位についての国際比較(教育、経済、政界、その他の分野)は132カ国中、121位。政治家の数衆議院議員 465人中、女性46人(9.9%)、国会議員の女性比率、190カ国中、167位。

男女の立候補者に比率を均等になるよう目指す「政治分野における男女共同参画推進法」には罰則がなく義務付けがありません。

コロナ禍の広がりによって女性の生きにくさもはつきり浮上しました。

女性自殺者が6976人、例年に比較して885人増し、(男性135人増し) 小中高校生自殺者307人、前年比女子高校生の自殺50人増しの報道(京都新聞2021.1.23、2019年11月時点)。

働く女性の6割はパート労働、非正規の身分、低賃金であり、コロナによる経済不況により真っ先に解雇され、多数のパート労働の母子家庭の母親や、若い女性は失職により生活困難におちいりました。

ある女性へのセクハラ事件への閣僚の発言「セクハラ罪はない」とする差別意識や、医学部の女子学生へ

の入試差別、保育園入園拒否へのツイッター抗議など、差別問題は噴出していきます。

コロナ収束後の、性差別、あらゆる差別のない新たな社会を目指すなら、日本国憲法に宣言されている平和思想、平等、人権の重視、開かれた国際性を改めて確認する必要があるでしょう。現実はそのような国の方とはかなりかけ離れたものになってしまいました。

菅首相は憲法9条に自衛隊を加筆しないまま、前首相の9条を骨抜きにする政策を継承し、敵地攻撃のための軍事拡張を図る一方、米軍との合同演習体制を作り軍事費を増加(5兆4千億円)して軍事国家への道を進んでいます。

女性の地位に関して、自民党憲法改正チームは、憲法24条、婚姻、家族における両性の平等を、個人ではなく家族や共同体の価値を重視する観点から見直しています。自民党改正草案24条では、男は兵隊へ、女は銃後の守り、と言った戦前の役割分担の考えに回帰するかのようです。

役割、分業意識、女性は男性の補助的存在という社会的通念が消え去らないかぎり、世界の動きに大きく立ち遅れ、女性の能力を生かすこと

も、男性が自由に生きることができません。

さらに、自民党が憲法に加筆予定の、緊急事態対応法規定(73条の2)大地震その他の異常かつ大規模な災害により、国会による法律の制定を待ついとまがないと認める特別の事情があるときは、内閣は、法律で定めるところにより、国民の生命、身体及び財産を保護するため、政令を制定することができる」では、国家権力が議会を経ずに政令によって全域、国民をひとからげにコントロールできます。

今後はマイナンバー制によっても、国は国民を把握することが可能です。

今こそ日々の生活が政治に直結していることを考え、政治に個々の意見を反映させましょう。





謡曲十五徳

猪飼 康夫

謡曲は能楽の詞章で演劇の脚本に相当します。能楽は今から六五〇年ほど昔、室町時代に観阿弥・世阿弥親子により大成され、時の將軍足利義満の庇護をうけ、その地位が確立しました。

当時は、猿楽と呼ばれ、能楽と呼ばれるようになったのは明治以降です。

戦国時代には、信長・秀吉・家康などの武将が能楽の魅力にひかれま

す。江戸時代には徳川幕府が能楽9師を召抱えるようになり、庶民の間でも謡曲が謡われるようになりました。「謡曲十五徳」を最初に詠んだのは、細川藤孝（幽斎）といわれています。藤孝は、大河ドラマ「麒麟がくる」に登場した戦国武将です。

踏まずして名跡を窮
家に居りて容姿を整う
旅に在りて親朋を得る
学ばずして武芸を覚える

軍せずして戦陣に通ず

眺めずして草月を詠ず

習わずして歌道をしる

友無くして寂寥を慰む

酒無くして鬱気を散らす

老いにならずして故事を知る

求めずして高位と交わる

恋をせずして美人を思ふ

侮らずして神徳を感ず

触れずして仏理を解く

期せずして体質健やかかなり

幽斎は藤孝の雅号であり、文武両道の達人でした。気の休まる暇のない戦国武将が謡曲に求めていたものがこの句から読み取れます。

時代が昭和になり、観世流家元から雪号を与えられた能楽師、杉浦義朗（友雪）の謡曲十五徳は、次のとおりです。

居ながらにして天下の名勝に遊ぶ

学ばずして歌道を究める

修めずして仏道に徹する

師なくして文学を習う

薬に頼らずして気持を朗化する

勞せずして体力を養う

交友なくして人情の機微に徹す

神詣でせずして神徳を知る

一人居ながら閑居を慰む

努力せずして品位を養う

座して花鳥風月を楽しむ

古き書を繙かずして故事を知る

教えずして歴史を知る

酒飲まずとも知友を得る

修行せずして武士道を知る

友雪の句は、現代人にも納得しやすく、表現も分かり易く詠まれています。

戦には必ず勝ち負けがあります。謡曲の中に勝ち戦を扱った修羅物と呼ばれている曲に「田村」「屋島」「籠」があります。勝修羅物の主人公（シテ）は勇ましくかつこ良い役柄です。それに比べ負修羅物「清経」「敦盛」「頼政」などのシテは哀れですが、武士道を貫き通した最期が描かれています。

八幡市に因んだ曲に「弓八幡」「放生川」があります。神職が登場し、神徳が語られる曲です。

また、ワキ役に僧侶が登場し、仏教の教えが説かれる曲が数多くあります。

「居ながらにして天下の名勝に遊ぶ」「居ながら閑居に慰む」は外出自粛のこの時期に相応しい句です。

姿勢を正して腹の底から発声する謡曲は、心身共に良き健康法です。

謡曲を謡い続けてきて、ありがたく感じる功德は、人との繋がりで、学生時代の部活「謡曲部」で知り合った友人達とは六十年経過した今も親しく交流しています。妻子や孫と同じ舞台に出演できたこと、義父義母とも共に謡えて家族とのきずなが一層強くなったことなどはありがたいことです。

取引先との繋がり、地域の繋がりができたことも感謝しています。東京支社に勤務中は、杉浦義朗師の高弟、田口先生に謡曲の指導を受けていました。東京を離れる時、杉浦友雪翁自筆の「謡曲十五徳」（写真）をいただき、大切に保管しております。これからの余生を謡曲と共に楽しく過ごしたいと願っております。



八幡俳句歳時記 11

五七五のある人生

吉川せい子

昨年暮れ、朝日新聞から電話が入った。「朝日俳壇に投稿ありがとうございます。ご入選です。つきましては、ご本人確認のため電話を入れた次第……云々。」

期待していなかったと言えば嘘になる。けれど天下の朝日俳壇に初めて投句して、期待するなどおこがましい。奇跡でも起こらない限りあり得ない、などと思いつつ暮れの日を過ごしていた時の一報であった。

奇跡でも起こらない限りと思うのには、ひとつの思い込みがあるせいかもしれない。私が俳句に関わるようになった頃、朝日俳壇についての取材記事を読んだ覚えがある。

朝日俳壇の登場は1948年、かれこれ72年の歴史を誇る。選者はあの高浜虚子から始まる。以来、星野立子、中村草田男、石田波郷、加藤楸邨、山口青邨と、目くるめくばか

りのレジエントが続く。現在は、虚子の血を引く稲畑汀子、長谷川耀大串章、昨年物故された金子兜太に代り高山れおなの各氏である。

さらに毎週一度の朝日俳壇に寄せられるハガキは、毎週その数6千枚とも聞いている。それを四氏が一堂に集まり、各人がすべての葉書に目を通す。その中からお一人につき10句の入選句を選び出す。葉書1枚に1句が書かれた俳句の良し悪しを瞬時に判断し、入選作10句を選び出すという作業をやったのけるのは神業に思える。初心者私の投句した1句が、神の目に留まるというのは、それこそ奇跡だと思えたのだ。以来、朝日俳壇は私の頭から消えていた。

私の俳歴と言って、たかだか十年余である。地元の公民館でいくつかの句会に参加したり、吟行したり、それなりの俳句人生を楽しんでいる。それを同時進行で、恩師が代表を務められる故里の伝統ある同人誌や、京都新聞などにも投句して、選の結果を待つ楽しみも味わっている。そういう日常は、自分にとっては、豊潤で贅沢な過ごし方だと満足している。

そんなある日の定例会のこと、

私の提出した3句の中の1句に多くの票をいただいた。句会が終って、同席していたO氏が「この句、朝日俳壇に出したらいい」と言われた。朝日に何句も入選されているO氏の言葉が私の背中を押した。そして入選。朝日俳壇に対する私のトラウマは消えた。

【入選句】

牡蠣とろり有明海の母乳と吸ふ

せい子

私の故郷は長崎県の島原半島で有明海の潮騒を聞いて育った。子ども頃の、遠浅の浜で浅利堀りや海苔採りなどの合間に、岩にへばり付いた牡蠣を、ヘラで剥がしてその場で口に入れたものだった。牡蠣は海のミルクとも言われるほどの滋養があり、文字通り浜の子ども達を育てたと思う。まさに母なる海である。その思い出が一句に成った。



俳句をやる人の平均寿命は、一般

の人のそれと比べると約十年は長いと言われている。手前みそを言うようであるが、俳句には知的な魅力に加え、長く続けられる幾多の要素があるとと思う。俳句づくりには少し慣れなくては、句会でぽつぽつ評が入るようになる。すると、もう深みにはまること間違いない。そうすると、それまで見過ごしてきた季節の移ろいなどに気が付き、歳時記を座右の友とし、よく考え、よく歩くから心身を健やかに保てるというものである。

コロナ禍で引き籠りの生活を余儀なくされて時間をもて余している皆さん、俳句の世界へ飛び込んでみませんか。

有り余る時間や戯る百千鳥

せい子



『きずな』の文芸

《俳句》

(聖々)

ジーンズに穴明けている弥生かな

万歩計日永となりて草臥れて

オペラ劇アリアを歌ふ猫の恋

(やすお)

アルバムに家族の笑顔堀炬燵

水門に河童の棲むか虎落笛もかりふえ

放生川に渡りを待ちて鳴る群

(信)

春の海鑑真の船一休み

雛納めはつと男の手が見えて

バベルの塔五十四基や震災忌

※五十四基は日本の原発の数

(淑子)

啓蟄の声聞いてをり白き杖

密かごとと思ひ起せり桜餅みつ

雲水の見え隠れして花の山

(千)

棕鳥と思へぬ美声囀れり

名草の芽ゆつたりと舞ふ鳶三羽

春雷に父の声聞く目覚めかな

協賛金のご協力をお願いします

忘れしこと忘れし手袋

曾孫来る妻手作りの雛飾る

不安の滓降り積らせて猫柳

(みやこ)

マイバックに吾も数に入れ雛あられ

介護車の若葉マークや梅白し

来し方の推敲ありや春の雲

(栄)

紅梅のひとときは紅き天満宮

盆梅や育てし技の香る棚

嫁ぐ娘を想ひて飾る雛人形

(萩の葉)

花月夜君でなければならぬ理由

夕光の桜花満ちをりて恋初めき

花冷えの町にゆき逢ふ空似など

(重悟)

薬に歩みを停めて空蒼く

氷柱より落つる雫や山の宿

哀歎を綯い交せにする三月よ

《川柳》

(笑楽)

しなしなとラジオ体操おばあさん

ごみ回収荒らしちゃいけねえ明け鴉

鏡見て「開けたの誰だ」玉手箱

ニュース見てテレビ画面に

つい怒鳴る

マスクせぬ人に出会うと息を止め

不祥事に離党はしても辞職せず

《短歌》

(萩の葉)

階の途中までを降りゆきて

寂かさに触る如あなたに出会ふ

花あかりきのふと今日のあはひより

寢覚めし刹那間はしづまる

◆読者の皆様へ

「きずな」16号は7月中旬に発行されます。夏の俳句や川柳、短歌をふるつてご投稿ください。

×切…6月5日

宛先…〒614-8332

八幡市橋本新石22-111

FAX 075・983・5278

土井三郎

字句の訂正

お詫びして訂正いたします。
「きずな」12号10頁「コロナ禍を考
える」高桑進 3段目10行目
(誤) WERS ↓ (正) MERS

編集後記

今号が発行された4月中旬で、コロナ禍1年と3カ月が過ぎます。収束の気配は未だ見えていませんが、ポストコロナをいかに生きるのかを考えるうえで、私たちがこの間何を学んだのかを銘記すべきだと思います。その一つとして、社会的弱者にとつてコロナ禍は何であったのか。何が彼等を追い詰めたのか。私たちはそのことにどこまで関心を持ち続けたのでしょうか。

東日本大震災から10年。未だに故郷に帰れない住民が多数存在することからも、私たちが心すべきことは多いと思われまます。

そんな中、市民交流誌を目指す『きずな』は15号の発行を迎えました。八幡市民の情報・交流誌として何が出来たのか。何が課題なのか。そんなことを考えてみたいと思います。執筆や取材に応じて頂いた多数の方々にお礼の申し上げるとともに、皆様からの忌憚のないご感想やご意見をお寄せくださるようお願いいたします。

—「きずな」編集委員会—

(郵) 00940-8196292 NPO法人22世紀八幡ルネッサンス協会
(銀) 京都銀行男山支店 普通預金 4165224 NPO法人22世紀八幡ルネッサンス協会